



厳しい暑さの日が続く食欲不振や、冷房による冷えやだるさ、暑さで十分な睡眠をとることが出来ていないなど夏の疲れが出ている方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな疲れや溜まったストレスなどにより、免疫力が低下している時に発症頻度が増加しやすいとされているのが**帯状疱疹(たいじょうほうしん)**です。今回は帯状疱疹についてご紹介します。

帯状疱疹ってなに？

帯状疱疹とは、子供の頃にかかった水疱瘡(みずぼうそう)のウイルスが再活性化することで発症する皮膚の病気です。水疱瘡にかかったことのある人は、治癒後もそのウイルスが潜伏した状態にあり、疲れやストレス、病気などの要因によって一部の免疫が低下することでそれまで眠っていたウイルスが目覚め、神経を伝わり皮膚に到達して、痛みを伴う赤い発疹を生じます。



どんな症状が出るの？

- 体や顔の左右どちらかに、ピリピリ、チクチク、ズキズキといった神経痛が生じる。(痛みの感じ方は個人差が大きいようです。)
- 数日後、痛みのある部位に赤い発疹が出てくる。初期段階では「虫刺され」「かぶれ」「小さなおでき」のように思われることが多い。
- 進行すると発疹が小豆大くらいの水ぶくれになり、体や顔の片側に、帯状になって広がる。水ぶくれはやがて破れてただれ、かさぶたになる。



帯状疱疹かなと思ったら

痛みに加えて皮膚に発疹などが現れた場合には、すぐに皮膚科を受診しましょう。帯状疱疹は早期発見、早期治療で後遺症なく治癒できる病気で、皮疹出現から3日以内に治療を開始するのが理想だといわれています。「帯状疱疹かもしれないけれど、医療機関を受診するのは2~3日後にしよう」などと先延ばしにすると、症状がさらに長引くことになるのはもちろん、抗ウイルス薬の効果が十分得られない可能性も高くなります。また、発症部位によっては、顔面神経麻痺や目の合併症などの可能性もあります。早めに受診しましょう。

お早めに



予防方法は？

● 睡眠や休息をしっかり摂り、音楽を聴く・テレビや映画を観る・瞑想や入浴など、自分なりのストレス解消法を見つけて、疲れやストレスを溜めこまないようにしましょう。

- 50歳以上の方であれば帯状疱疹予防ワクチンを接種することができます。

ワクチンを接種することで発症率が抑えられるだけでなく、もし発症してしまっても「重症化しにくくなる」「痛みが残りにくくなる」などが期待できます。



ワクチン接種ができない方や、接種に注意を必要とする方もいます。かかりつけ医にご相談ください。

帯状疱疹の発症率は50代から高くなり、80歳までに3人に1人が帯状疱疹を経験すると推定されています。

若い世代でも、ストレスや疲労が重なったりすると、ある日突然発症する場合があります。忙しい時に発症してしまうと病院受診が難しく、治療を後回しにしてしまうこともあるかもしれません。

ですが、これが帯状疱疹の最大の問題点ともいわれています。治療の遅れにより症状の重症化や、皮膚の症状が治った後も痛みが続く「帯状疱疹後神経痛」へと移行する可能性もありますので早期の病院受診をお勧めします。

(今月の担当は皆越です)

全国の医療機関の処方箋を受付けます
お気軽にご相談ください

きりん薬局 原田店

熊本県球磨郡多良木町大字多良木2899

TEL 0966-42-6900

FAX 0966-42-6910